

平成29年度 第19回倫理審査委員会

開催日時：平成30年2月22日（木）14：00～15：20

開催場所：国立成育医療研究センター研究所2F セミナールーム

出席委員：斎藤委員長、奥山副委員長、石黒委員、五十子委員、小野寺委員、神里委員
小林委員、近藤委員、左合委員、瀧本委員、松本委員、松谷委員、村島委員

審議課題数：33件（承認31件、条件付承認2件）

受付番号1669：小児に患者における Nasal High Flow 装着に関するプリパレーション導入時期の検討（迅速審査）

◆ 申請者：山岡 知奈

◆ 申請の概要

当院 PICU で NHF を使用しているケースの中には NHF 装着を拒否するケースがある。しかし小児におけるプリパレーションに関する研究は行われていない現状がある。そのため、本研究では、NHF 装着から鎮静薬を使用した対象の使用時間の集計をもとにプリパレーション導入時期の検討をすることで、プリパレーション導入の一助とすることを目的とする。

◆ 審議結果

上記課題に係る迅速審査結果の報告を受け、委員会として了承。

◆ 判定：承認

受付番号1701：無痛分娩後の下肢神経症状に関する後方視的検討（迅速審査）

◆ 申請者：伊集院 亜梨紗

◆ 申請の概要

産褥期ニューロパチーは分娩の約1%に起こるとされ、その原因として neuraxial anesthesia の直接の合併症はまれとされている。今回、当院における無痛分娩後の下肢神経症状の頻度と麻酔管理法・分娩様式について後方視的に検討し、下肢神経症状の経過について調べる。

◆ 審議結果

上記課題に係る迅速審査結果の報告を受け、委員会として了承。

◆ 判定：承認

受付番号1717：multiplex PCR 検査を使用した重症肺炎症例における抗菌薬投与のマネージメントの実態（迅速審査）

◆ 申請者：小川 英輝

◆ 申請の概要

Multiplex real time PCR 検査を用いた検討により、入院を要する小児の市中肺炎の7割程度がウイルス感染症であることが報告されている。しかし PCR 検査の結果によって、抗菌薬を早期に終了できるかを検討した既報は少ない。当院で PCR 検査が提出された症例を対象として、どのような因子が抗菌薬の処方に影響を与えるか後方視的に検討する。また抗菌薬を終了した症例に、一定の傾向があるかも調査する。

◆ 審議結果

上記課題に係る迅速審査結果の報告を受け、委員会として了承。

◆ 判定：承認

受付番号1719：DPC データにおける Pediatric complex chronic conditions

classification system version 2 の妥当性の検証（迅速審査）

◆ 申請者：森崎 菜穂

◆ 申請の概要

本研究は 2013 年 4 月から 2016 年 3 月までに当センターの入院中に 20 歳以下で亡くなられた患者さんのカルテ情報を用いた研究です。当研究では、カルテ情報から死因を自動的に分類することができるかを検証します。また、これをもとに診療科別の入院患者数の推移と、死因別の患者数の推移を比較します。さらに、厚生労働省または統計局の公表データを用いた、悪性疾患や奇形患者数の年度推移と自動分類から産出された当センターでの患者数推定の推移を比較します。

◆ 審議結果

上記課題に係る迅速審査結果の報告を受け、委員会として了承。

◆ 判定：承認

受付番号 1722：先天性多発関節拘縮症の乳児期の全身管理における問題点（迅速審査）

◆ 申請者：長濱 由美

◆ 申請の概要

先天性多発関節拘縮症は、先天性に多関節拘縮と可動域制限を呈する症候群であり、少なくとも半数に他の先天的な異常を認める。また、基礎疾患や合併症を有する患児は、新生児期から重篤な状態に陥ることが少なくない。2004 年から 2016 年までの 12 年間で、1 歳前に当院整形外科で先天性多発関節拘縮症と診断され、整形外科的治療が開始された患児について、治療の際の重篤な事象の有無について検討する。

◆ 審議結果

上記課題に係る迅速審査結果の報告を受け、委員会として了承。

◆ 判定：承認

受付番号 1724：保護者の表現する「ぐったり」の病歴は入院を予測するか（迅速審査）

◆ 申請者：鉄原 健一

◆ 申請の概要

家族の心配という主観、看護師の児への印象、脱水についての保護者が感じる状態不良についての報告はあるが、内因性疾患全体で保護者の身体所見としての「ぐったり」が児の重症度を予測するか報告はない。本研究では電子診療録を後方視的に観察し、救急外来に内因性疾患で受診した 3 歳未満の小児の保護者から聴取した病歴に「ぐったりしている」という記載がある場合、記載がない場合と比べて入院が増えるか調べる。

◆ 審議結果

上記課題に係る迅速審査結果の報告を受け、委員会として了承。

◆ 判定：承認

受付番号 1727：指定難病制度の普及・啓発状況の把握および普及・啓発のための方法論の開発に関する研究（迅速審査）

◆ 申請者：森 臨太郎

◆ 申請の概要

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）「指定難病制度の普及・啓発状況の把握および普及・啓発のための方法論の開発」（研究代表者：和田隆志）研究班は、指定難病および小児慢性特定疾病制度の普及・啓発状況の実態調査をおこない、疾病（群）ごとに最適な普及・啓発方法を検討・開発し、実際にそれらの方法を用いて普及・啓発を推進することを目的としています。指定難病制度の普及・啓発の状況を把握するために、

日本小児科学会、日本腎臓学会、日本神経学会、日本皮膚科学会、日本外科学会における、各学会の代議員への無記名のアンケート調査を実施し、指定難病の普及・啓発における問題点が明らかとし、今後はこの結果をもとに指定難病の普及・啓発の方法の開発・推進を目指します。

◆ 審議結果

上記課題に係る迅速審査結果の報告を受け、委員会として了承。

◆ 判定：承認

受付番号 1729 : 国民健康保険レセプトデータを用いた小児医療の実態に関する調査研究（迅速審査）

◆ 申請者：盛一 享徳

◆ 申請の概要

本研究は、厚生労働行政推進調査事業費補助金および科学研究費助成金により、神奈川県ならびに同県下 33 市町村、神奈川県国民健康保険団体連合会の協力の下、小児慢性特定疾病対策等の小児領域における医療費助成制度の利用状況等について、匿名化された国民健康保険レセプトデータを解析することにより、今後の母子保健施策を考える上で必要なエビデンスを見出すことを目的とします。

◆ 審議結果

上記課題に係る迅速審査結果の報告を受け、委員会として了承。

◆ 判定：承認

受付番号 1733 : Fanconi 貧血を合併した母指形成不全症の検討（迅速審査）

◆ 申請者：関 敦仁

◆ 申請の概要

母指形成不全は比較的散見される先天異常であるが、まれに Fanconi 貧血を合併することがある。Fanconi 貧血は造血幹細胞移植で根治が期待出来るようになったが、現在も発症 10 年の生存率は 85%と重篤な血液疾患である。実際に Fanconi 貧血の合併は母指形成不全の手術後に判明していることが多いため、手術前の特徴を調べることで Fanconi 貧血の早期発見、早期治療にも寄与できるものと考えている。

◆ 審議結果

上記課題に係る迅速審査結果の報告を受け、委員会として了承。

◆ 判定：承認

受付番号 1734 : 小児上腕骨外側顆骨折の内反肘変形に対する検討（迅速審査）

◆ 申請者：関 敦仁

◆ 申請の概要

小児上腕骨外側顆骨折は偽関節や成長障害により外反肘変形を起こすことが知られているが、その一方で過成長や転位遺残により内反肘変形を来す。外側顆骨折後の内反肘は顆上骨折のそれとは異なり、臨床症状の報告に乏しく、その病態は詳細に検討されていない。今回、外側顆骨折後の経過を内反肘の程度に焦点を置いて調査する。

◆ 審議結果

上記課題に係る迅速審査結果の報告を受け、委員会として了承。

◆ 判定：承認

受付番号 1743 : 保育活動中に起こりうるインシデントについての研究～病棟内で保育士が関わるインシデントについての傾向と対策～（迅速審査）

◆ 申請者：八尾 正美

◆ 申請の概要

当院では、保育活動中に起こりうるインシデントについて、実際に起きたインシデント内容について原因と対策を検討し、各病棟の状況や入院患者の疾患、成長・発達に応じた安全な保育を提供できるように取り組んでいる。そこで保育活動中に起こりうるインシデントに関する患者の年齢や疾患、状況等の傾向を明らかにして、インシデントを未然に防ぐ方法を検討することを目的として、各病棟でのインシデント事例を集計し、分析を行う。

◆ 審議結果

上記課題に係る迅速審査結果の報告を受け、委員会として了承。

◆ 判定：承認

受付番号 1746：小児におけるグラム陰性桿菌菌血症のフォローアップ血液培養の有効性についての検討（迅速審査）

◆ 申請者：上原 絵理香

◆ 申請の概要

菌血症は生命を脅かす感染症であり、慎重な検査、治療が必要です。成人では、特にグラム陰性桿菌菌血症においてフォローアップの血液培養の陽性率は低く、盲目的にフォローアップの血液培養をとるべきでないという意見があります。しかし、小児について検討した報告はありません。小児のグラム陰性桿菌菌血症の症例について診療録情報を振り返り、小児においてフォローアップ血液培養の削減が可能か検討し、検査の適正化につなげます。

◆ 審議結果

上記課題に係る迅速審査結果の報告を受け、委員会として了承。

◆ 判定：承認

受付番号 1749：小児甲状舌管嚢胞術後再発に関する臨床病理学的検討（迅速審査）

◆ 申請者：北園 育美

◆ 申請の概要

甲状舌管嚢胞は前頸部正中に認められる嚢胞性病変で、増大する腫瘍形成や感染を契機に小児期に発見されることが多い。治療法は外科的切除である。術後再発率は3-15%、舌骨非切除症例や術前感染の既往が再発の危険因子と報告されている。再発を繰り返し複数回の手術が必要になるなど治療に難渋する症例も存在する。我々は、当センターで手術を受けた甲状舌管嚢胞症例の病理組織所見および臨床所見について、再発との関連性について検討し、術後再発の危険因子を検索する。

◆ 審議結果

上記課題に係る迅速審査結果の報告を受け、委員会として了承。

◆ 判定：承認

受付番号 1750：橈側列形成不全・母指形成不全症の病態に関する日米比較（迅速審査）

◆ 申請者：関 敦仁

◆ 申請の概要

橈側列形成不全は比較的散見される先天異常であるが、重症度においてそれに付随する母指形成不全の重症度と必ずしも一致しない可能性がある。さらに、合併症についてもこれまでの報告より発生頻度に米国との違いがあるものと推測する。これらについて当センター同様、先天異常を多く扱う米国施設との比較調査を行うことで国内発生の特徴を検討し、それに基づき国内独自の診断、治療方針の確立にも寄与できると考えている。

◆ 審議結果

上記課題に係る迅速審査結果の報告を受け、委員会として了承。

◆ 判定：承認

受付番号 1752：裂手の病態と治療に関する研究（迅速審査）

◆ 申請者：関 敦仁

◆ 申請の概要

代表的な手の先天異常である裂手の病態・重症度は様々で、さらにその治療についても多くの手技が存在している。特に横走骨と呼ばれる指基部に横走あるいは斜走する骨が存在する症例では、通常これらの骨を切除して裂隙の閉鎖・形成を行うが、指数確保を希望する一部の症例に対しては横走骨を利用した再建を試みることがある。2008 年以後に手術を行った横走骨を有する裂手症例を調査し、指数確保目的で手術を行った症例の術後成績を検討、治療方針の選定について考察する。

◆ 審議結果

上記課題に係る迅速審査結果の報告を受け、委員会として了承。

◆ 判定：承認

受付番号 1753：橈側列形成不全・母指形成不全症の病態及び再建手術成績の検討（迅速審査）

◆ 申請者：関 敦仁

◆ 申請の概要

母指形成不全・橈側列形成不全は、比較的頻度の高い先天異常で、前腕では橈骨遠位の低形成から橈骨欠損まで、母指では母指球筋の軽度低形成から浮遊母指、母指欠損まで多彩な病態を呈し、病態・重症度に応じ、治療の優先順位・注意点などを踏まえ治療戦略を立てる必要がある。それぞれの病態に応じた治療法の選択については、多くの論文に紹介されているが、必ずしも満足な治療成績が得られているとは言い難い。成育医療研究センター整形外科では、本疾患に対して 2003 年以後 200 例以上の手術を施行してきたが、小指外転筋による対立再建手術における移行腱停止部位置の変更、軽症例に対する短母指外転筋を用いた対立再建法、浮遊母指に対する骨端軟骨付き中足骨移植に二次的腱移行の組み合わせによる母指温存治療、橈骨骨延長による内反手の再建など、独自の手技を工夫して再建を行った症例も多い。先天異常手は、成長終了時までの観察で、初めてその問題点・限界などが判明することも多く、術後長期経過例を中心に再建手術の結果を調査することで、多彩な病態を呈する本疾患に対する治療法の確立を目指す。

◆ 審議結果

上記課題に係る迅速審査結果の報告を受け、委員会として了承。

◆ 判定：承認

受付番号 1675：小児科医によるインターネット小児医療相談利用後の受診行動及び医療費に関する検討（迅速審査）

◆ 申請者：橋本 直也

◆ 申請の概要

2016 年 12 月～2017 年 6 月の平日、日曜 18-22 時に株式会社 Kids Public によって行われたインターネット小児医療相談「小児科オンライン」を無料利用した相談者の受診行動及び医療費に関して、相談者の所属する健康保険組合のレセプトデータと突合することで後方視的に検討し、インターネット小児医療相談が相談者の受診行動及び医療費に与える影響に関して、示唆を与えることを目的とする。

◆ 審議結果

上記課題に係る迅速審査結果の報告を受け、委員会として了承。

◆ 判定：承認

受付番号 1487：子どもの頃の家族関係が成長後にわたる子のメンタルヘルスに与える影響（迅速審査）

◆ 申請者：水本 深喜

◆ 申請の概要

家族システム論，ソーシャルキャピタル，アタッチメント，虐待防止の視点から「子どもを健やかに育てる家族尺度」を作成し，大学，専門学校，医療機関等で質問紙調査を行う。そして子どもを健やかに育てるための家族とはどのような家族なのか，幼少期の家庭での被養育体験が成長後も含めた子どものメンタルヘルスにどのような影響を与えるのかを明らかにする。

◆ 審議結果

上記課題に係る迅速審査結果の報告を受け、委員会として了承。

◆ 判定：承認

受付番号 1347：乳児アトピー性皮膚炎への早期介入による食物アレルギー発症予防研究/多施設共同評価者盲検ランダム化介入並行群間比較試験（迅速審査）

◆ 申請者：大矢 幸弘

◆ 申請の概要

当院で治療中の小腸瘻造設患者さんや大腸欠損患者さんの糞便・腸液を採取し、この試料に含まれる細菌叢を細菌遺伝子解析手法によって調べます。また、患者さんにスーパーシンバイオティクスという食品製剤を飲用していただき、そこに含まれるビフィズス菌や乳酸菌が腸内細菌叢にどのような効果をもたらすかを検討します。この研究により、大腸を使用しない、または大腸がない患者さんの腸内細菌叢の特徴を明らかにし、どのような細菌叢が有効かを検討する基礎的な資料とします。

◆ 審議結果

上記課題に係る迅速審査結果の報告を受け、委員会として了承。

◆ 判定：承認

受付番号 1439：牛乳アレルギー治療（経口免疫療法）に対する有効性検証試験（乳酸菌発酵果汁飲料を用いた二重盲検プラセボ対照並行群間比較試験－パイロット研究）（迅速審査）

◆ 申請者：大矢 幸弘

◆ 申請の概要

近年、胎児期の曝露が児の健康アウトカム（喘息、自閉症、成人期の高血圧・糖尿病など）に影響するとされ、注目されている。しかし、女兒における成長後の妊娠を介した世代を超える影響に関しては、先行研究はない。そこで、本研究では妊婦様自身の母子手帳を提供して頂き、女兒の胎児期曝露が成長後の妊娠経過に及ぼす影響を検討する。

◆ 審議結果

上記課題に係る迅速審査結果の報告を受け、委員会として了承。

◆ 判定：承認

受付番号 1537：乳児アトピー性皮膚炎への早期介入と経口免疫寛容誘導によるアレルギーマーズ進展の予防効果を探る前向きコホート研究（迅速審査）

◆ 申請者：大矢 幸弘

◆ 申請の概要

2017年7月18日付で倫理審査委員会にて承認された事項のうち、実施場所の変更についての可否。

◆ 審議結果

上記課題に係る迅速審査結果の報告を受け、委員会として了承。

◆ 判定：承認

受付番号1604：慢性疾病を有する子どものQOLおよび社会支援等に関する実態調査（迅速審査）

◆ 申請者：掛江 直子

◆ 申請の概要

全国の小児慢性特定疾病を有する児（8歳～20歳未満）とその保護者（児の年齢が0歳～20歳未満）を対象に、児と保護者のQOLおよび社会支援等の実態を明らかにするためにウェブ調査を行う。本調査は各自治体から協力依頼書を送付し、対象者が自ら説明を読み調査協力を検討、協力意思のある者は本人のPC、スマートフォン等でウェブ調査票にアクセスし、回答を行う。

◆ 審議結果

上記課題に係る迅速審査結果の報告を受け、委員会として了承。

◆ 判定：承認

受付番号1708：新生児-乳児消化管アレルギーに合併した壊死性腸炎の病理学的検討（迅速審査）

◆ 申請者：野村 伊知郎

◆ 申請の概要

新生児-乳児消化管アレルギーに合併する壊死性腸炎と低出生体重児に見られるそれとの間に、消化管組織の病理学的差がないかを調査する。これによって病態、病因が明らかとなった場合、治療法を格段に進歩させることが可能になる。

◆ 審議結果

上記課題に係る迅速審査結果の報告を受け、委員会として了承。

◆ 判定：承認

受付番号1736：好酸球性胃腸炎、食道炎の全国有病率調査（迅速審査）

◆ 申請者：野村 伊知郎

◆ 申請の概要

好酸球性胃腸炎、食道炎は近年増加傾向にある。特に慢性的な腹痛、栄養障害などが生涯にわたって続く持続型好酸球性胃腸炎は、QOLの低下が甚だしく、不登校や離職の原因となっている。これらの患者の実数を把握するために、日本全国にアンケートを郵送し、有病率を算出する。また二次調査として、症状、間歇型か持続型か、炎症部位などを調査し、特に問題となる持続型好酸球性胃腸炎の実数を把握する。

◆ 審議結果

上記課題に係る迅速審査結果の報告を受け、委員会として了承。

◆ 判定：承認

受付番号1712：医療施設における水晶体の等価線量の実態調査と防護方法に関する効果的な教育プログラムの開発（迅速審査）

◆ 申請者：野坂 俊介

◆ 申請の概要

平成 30 年度より放射線従事者の水晶体等価線量限度を、現行の年 150mSv から 20mSv とすることが原子力規制庁で検討中です。現状データでは、3,000 名以上が年 20mSv 以上被曝しています。

そこで、IVR(画像下治療)、放射線治療、核医学診療での水晶体被曝線量を調査し、被曝低減策を検討する研究を企画しました。これにより医療放射線を適切に安全管理し、放射線診療の恩恵を患者さんに提供可能となります。

◆ 審議結果

上記課題に係る迅速審査結果の報告を受け、委員会として了承。

◆ 判定：承認

受付番号 1714：新生児低体温療法レジストリーによる我が国の新生児蘇生法ガイドラインの普及と効果の評価に関する研究（迅速審査）

◆ 申請者：伊藤 裕司

◆ 申請の概要

2010 年の国際蘇生法連絡委員会にて、中等症から重症の新生児低酸素性虚血性脳症に対する低体温療法が標準治療とされました。しかし、低体温療法の脳保護効果はまだ十分ではなく、適応基準や方法の改善が必要です。そこで本研究では、全国の周産期施設で低体温療法を施行したお子さんの臨床データを登録し、これを全国規模で蓄積し解析することにより、本療法による神経学的予後をさらに改善できることを目指します。

◆ 審議結果

上記課題に係る迅速審査結果の報告を受け、委員会として了承。

◆ 判定：承認

受付番号 1723：全国人工内耳手術症例データベース作成（迅速審査）

◆ 申請者：守本 倫子

◆ 申請の概要

日本耳鼻咽喉科学会では、人工内耳手術を受けた患者さんについて、難聴の種類や手術の年齢、言語訓練の有無などをデータベース化することになった。この背景として小児人工内耳適応基準なども 2014 年に改訂されたが、その改訂による影響を明らかにする必要があること、新たに改訂する必要性を検討できるようにすることなどがある。この登録には個人情報には十分に配慮される予定であり、結果は学会 HP 上に手公表される予定である。

◆ 審議結果

上記課題に係る迅速審査結果の報告を受け、委員会として了承。

◆ 判定：承認

受付番号 1725：生薬青黛使用歴のある潰瘍性大腸炎患者の有害事象に関する多施設実態調査（迅速審査）

◆ 申請者：清水 泰岳

◆ 申請の概要

青黛は潰瘍性大腸炎への有効性の報告がある一方、肺動脈性肺高血圧症の副作用が報告され、厚労省より注意勧告が出されました。また、肝障害、頭痛、嘔吐、腸重積等の青黛との関連が否定できない副作用も報告されています。本研究では慶應義塾大学消化器内科が中心となり、全国から副作用情報を集め解析します。これにより青黛の副作用の種類、重症度、頻度、原因などを明らかにすることが可能となると考えられます。

◆ 審議結果

上記課題に係る迅速審査結果の報告を受け、委員会として了承。

◆ 判定：承認

受付番号 1731：出生前診断に関する認識とリテラシー構成要素の実態調査：インタビュー調査およびweb調査による横断研究（迅速審査）

◆ 申請者：松原 洋一

◆ 申請の概要

近年、妊婦とそのパートナーが出生前診断について考える場面が増加しているが、自律的判断を進めるには当事者自身の「出生前関連リテラシー」の醸成が重要である。しかし現状では「出生前診断関連リテラシー」の明確な定義はない。そこで本研究では出生前診断経験者を対象としたインタビュー調査を行い、「出生前診断関連リテラシー」構成要素の抽出を行う。

◆ 審議結果

上記課題に係る迅速審査結果の報告を受け、委員会として了承。

◆ 判定：承認

受付番号 1732：脂肪幹細胞の品質である増殖能・分化能を評価する技術の研究（迅速審査）

◆ 申請者：阿久津 英憲

◆ 申請の概要

再生医療産業活性化推進事業のもと、琉球大学医学部再生医療研究センターで凍結保存された脂肪組織由来幹細胞（ADSC）を用い細胞の品質特性に関する解析および品質評価マーカー開発の研究を行いADSCを安全にストック化できる基盤技術開発を行う。

◆ 審議結果

上記課題に係る迅速審査結果の報告を受け、委員会として了承。

◆ 判定：承認

受付番号 1735：日本小児科学会「小児死亡事例に関する登録・検証システムの確立に向けた実現可能性の検証に関する全国版後方視調査」への参加（迅速審査）

◆ 申請者：中尾 寛

◆ 申請の概要

子どもの予防可能死を減らすために、子どもの死亡を個別に対策を含めて検討する必要がある。以前、小児科学会の限定された4地域におけるパイロットスタディで、多くの予防可能な小児死亡が潜在していることが示唆されている。今回、同学会として、同様の検証方法を国内全域で追試行し、新たな情報収集の方法論を示し、有効性を検証する。当センターも小児死亡の匿名化された情報収集、検証に参加する。

◆ 審議結果

上記課題に係る迅速審査結果の報告を受け、委員会として了承。

◆ 判定：承認

受付番号 1737：重度四肢痙縮に対する痙性コントロールを目的としたフェノールブロック（一般審査）

◆ 申請者：阿南 揚子

◆ 申請の概要

（1）目的：脳性麻痺患者等に多く見られる痙縮による疼痛や姿勢異常・関節脱臼等による苦痛・骨折や褥瘡の危険の軽減・介護者の負担軽減。患者と介護者双方のQOLの改善。

(2) 対象と方法：

対象：

脳性麻痺などの疾患による重度の痙縮のために関節可動域制限や疼痛、変形や姿勢異常、介護困難を呈しており、リハビリテーションや装具療法、内服加療では効果不十分の患者。

方法：

手術室で全身麻酔をかけた上で、神経刺激装置を用いながら痙縮を起こしている筋肉を支配する神経周囲に5%フェノール液を注射する。

◆ 審議結果

本研究の医療・医学上の意義を認め、かつ倫理的に妥当と判断し、承認する。

◆ 判定：承認

受付番号 1741：持続型好酸球胃腸炎に対する多種食物同時除去とその後の原因抗原特定治療 ～前向きパイロット研究～（一般審査）

◆ 申請者：野村 伊知郎

◆ 申請の概要

持続型好酸球性胃腸炎の現時点の標準治療はステロイド薬長期内服である。有効性は高いものの、成長障害、骨粗鬆症、うつ状態が発生する場合がある。そこで根本治療として多種食物同時除去とその後の原因抗原特定治療を開発することにより、薬物なしで長期寛解が可能となることを目指す。

◆ 審議結果

本研究の医療・医学上の意義を認め、かつ倫理的に妥当と判断し、承認する。

◆ 判定：承認